

体力向上総合プロジェクト支援委員会 「体力向上チーム」が開かれました

県教育委員会では、震災・原発事故以降の児童生徒の体力・運動能力の低下傾向や肥満傾向児の高い出現率といった課題の解決のために、平成27年度より「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」を立ち上げ、各種事業を展開しています。そして、今後も更なる事業の充実を図る必要があります。

そのため、子どもの体力・運動能力及びそれに関わる全国の取組にも精通された有識者の方々から御意見を頂戴して、事業の更なる充実を図っているところです。有識者会議は「支援委員会『体力向上チーム』」という名称で、9月末、10月末と2回の会議を行いました。

【支援委員会「体力向上チーム」構成メンバー】

| 所属 | 役職 | 氏名 |
|----------|------|------------|
| 菊池小児科医院 | 院長 | 菊池信太郎 |
| 慶應義塾大学 | 教授 | 佐々木玲子 |
| 東京女子体育大学 | 講師 | 末永 祐介 |
| 順天堂大学 | 准教授 | 鈴木 宏哉 |
| 山梨大学 | 教授 | 中村 和彦 (座長) |
| 福島大学 | 特任教授 | 森 知高 |
| 東京学芸大学 | 教授 | 吉田伊津美 |

(50音順 敬称略)



【9月29日(木)第1回会議】

- 顔合わせ、委員紹介
- 趣旨の説明
- ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトの概要説明
- 児童期運動指針(福島版)の作成について

第1回の会議ということで、委員の先生方の紹介を行った後、本会議の趣旨と目指す方向性について説明を行いました。その後、現在進めているプロジェクトの事業説明を行い、専門的な見地から、様々な御意見をいただきました。最後に、今後作成を進めようとしている「児童期運動指針(福島版)」についても数多くのご示唆をいただきました。

<委員の方々のお話から>

- 運動をしない子どもがするようになった。運動が好きな子どもが増えた。そういう姿を求めたい。
- 大人は健康のために運動をしようと考えているが、子どもはそうは思っていない。楽しいから遊ぶ。普段からの生活を活発にしたい。1日60分以上の身体活動は運動だけではなく、生活をトータルで考えたい。
- 未就学児の心のストレスは、外遊びを1時間以上している子どもが少ない。逆に外遊び0分の子どものストレスは多い。

【10月24日(月)第2回会議】

- ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトの整理について
- 児童期運動指針(福島版)作成の今後の進め方について
- 各先生方の研究内容についてのプレゼンテーション

第1回会議での御意見をもとに、体力向上総合プロジェクトを発達段階別に整理し、御意見をいただきました。また、委員の先生方のそれぞれの研究内容をご説明いただき、今後のプロジェクト推進の大きな参考とさせていただきます。

<委員の方々のお話から>

- 体力向上総合プロジェクトには「授業の充実」という部分が足りないのでは。体力・運動能力の向上には授業の充実が1番大事。
- 現在の運動能力は現在の運動に支えられている。現在の運動は過去の運動経験に支えられている。

今年度は、12月と2月に第3回、第4回会議が行われる予定です。

(文責 健康教育課指導主事 塩田 俊郎)